

五疋、田畠六千二百四十町八反六畝拾九步、合セテ損亡六万六千百八十二石餘、

〔西海紀游上〕一霧島山いざなみの命雨御神立給ふ天のさかはごあり高さ八尺程出る四角也かく四寸ほどありゆるぐなり青さびにて唐かねのやう也うてば鳴るかねのをとなり山上へふもとより二里ほど登る大難所なり硫黃谷あり年中火燃る馬の脊こへ風あれば上られずまはりの小石参けいの持あがりてつむ又山上に木なし草原なり外の草あらずみなにんじんなり熾響如雷動及亥時火光稍止唯見黒烟然後雨沙峯下五六里沙石委積可二尺其色黑焉

〔遊囊臘記十三〕開聞嶽ハ、海門ニアレバ、海門ガ嶽トモイフ、又鳴著島空穂島、薩摩ノ富士ナドイフ、モ皆是ナリトゾ、爰ニ枚聞ノ神鎮座シ玉ヲ、谷山喜入揖宿ヲ過テ、コノ頬娃ニ到ル、

薩摩國  
開聞嶽

內  
浦  
嶽

○開聞嶽ノ事ハ又神祇部枚聞神社篇ニ在リ、參看スベシ、

〔ゑぞ日記〕内浦山は、駒ヶだけと云、焼山なり、山半腹より赤くして草木なく、峯に大石あり、山の裾東西七八里渡る衆山の内に挺然たりといふ。

〔東遊雜記十六〕蝦夷の地の内浦ヶ嶽といふ山、平生大ひに燃る山にして、夥しき煙立上る事也、戸切知よりも能見へ少し東の方へ行て、有川と云所より見れば、正面に見る山にて、行程三里と云とも、經は僅に思わるゝ也、予見る所の、肥後の阿蘇ヶ嶽、豊後の鶴見が嶽、薩摩の四まんが嶽、信州

ひ此内浦ヶ嶽第一なり、仙臺の林子平、此内浦ヶ嶽の燃る事も洩し、内浦ヶ嶽の所を取違へし事也。

〔怪異辯斷五異〕山崩

辯斷、山崩モ、地裂地陷ト、其理同ジ、土中ニ坎穴多クシテ、堅實ナラザル處有テ、分崩スル者ナリ、或